

1 研究主題 「言語活動を核として、思考表現を促す国語科学習」

2 研究の概要

国語部は、「言語活動を核として、思考表現を促す国語科学習」を研究テーマに掲げ、言語活用力や思考力、表現力を高める授業改善に取り組んできた。今年度は、小・中の連携による国語科研修の充実及び学習指導の創意・工夫を図ることを優先課題とした。市教育研究会国語部一斉研修会は、糸魚川小学校校内研究発表会、上越国語連絡協議会（上国連）秋季研修会、上越教育事務所「匠の授業」開催と合わせて四者共催での実施となった。

3 研究の実際

(1) 研究授業公開・協議会・講演会

- ① 日時及び場所：平成26年11月26日（水）13:30～16:50 糸魚川小学校
 ② 授業者・単元・題材名（光村図書）及び指導者

授業者	単元・題材名	授業の視点・読みの観点（糸小プラン）	指導者
太田 有美教諭	2年 お手紙	楽しさの中で読みの力をつける 一番大事な場面をどう指導するか	山本 修 糸魚川市教育委員会参事
谷内 卓生教諭 （匠の授業）	4年 モチモチの木	習得・活用型授業の試みパートⅡ 場面の移り変わりをどう指導するか	井上 幸信 加茂市立石川小学校教諭
倉又 圭祐教諭	6年 キツネの窓	結末をどのように読むか ファンタジー作品をどう読むか	渡部 洋一郎 上越教育大学准教授

③ 記念講演会

「確かな読みの力を育む物語の授業作り」講師 筑波大学附属小学校 二瓶 弘行 教諭

④ 展開の構想

○ 糸小プランに基づく読みの観点に着目させ、読みを深めていく

・糸小プランとは、国語科における文学的文章の全学年読みの観点一覧表（①物語の構成②時・場③中心人物④重要人物）をプラン1とし、読みの重点目標を明確にした単元一覧表をプラン2、物語文全学年教材分析表をプラン3、クライマックスを考える単元構成表をプラン4としている。各授業において、各プランを生かし、読みに焦点つけた授業の展開がなされた。

○ クライマックスの問いについて考え、読みを深めていく

・前の学習をもとに、主人公はどのようにして、変容を遂げたのか。そうなっていったのか。クライマックス場面における中心人物の変化について考え、シート、カード等により書き発表する。物語の主題について考えたり、それらを移動させたりしながら、考えを収束させていく。

○ ジャム対話、自己内対話、ペア対話、全体対話を通して自分の意見を発表していく

・ジャム対話（同じ考えの仲間が席を移動し意見を交流する対話）や各対話を組み合わせて読み深める。
 ・グループ対話・全体対話で結末についての根拠を明らかにして、課題に対する自分の考えを書く。

(2) 会員各自の授業実践レポートを各学年・特別支援学級別にし、1冊のファイルに集約（毎年）

4 成果と課題

- 思考力表現力を高める工夫として、全単元を通し、読みの観点に沿って、クライマックス場面を考えさせた学習活動やペアやグループ学習でのかわり合いや発表、振り返り、主題追求の対話等の言語活動を生かした授業構成は、児童の主体的な読みに繋がり有効的であった。ただ、多様な意見が出たとき、授業者がどうまとめていくかが課題となる。
- 授業実践集録レポートに、研究授業の指導案も加え、全小中学校に配布した。今後も授業研究を市内全体の国語科教育における指導力向上、実践力向上に努めていく。

